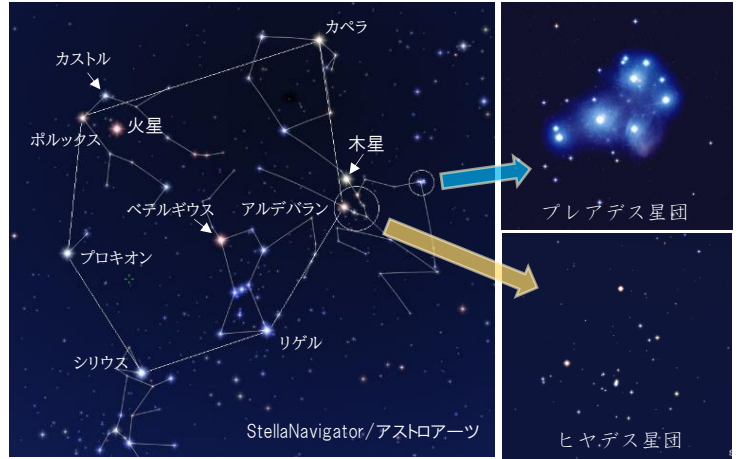


★今月の星もよう★

第129号

2月の夜8時頃、天頂付近にはオリオン座のリゲル、おおいぬ座のシリウス、こいぬ座のプロキオン、ふたご座のポルックス、ぎょしゃ座のカペラ、おうし座のアルデバランの6つの1等星を結んでできる「冬のダイヤモンド」が輝き、明るい木星と火星も加わって賑やかな星空が広がっています。12月から1月にかけてかに座寄りにあった火星は、逆行して(西方向に進んで)ふたご座のポルックスに近づき、ポルックス、カストルと結んで小さな三角形ができる位置に来ています。三角形は2月初旬には直角三角形、中旬には二等辺三角形の形になりますので、日を置いて観察してみてください。また、木星は先月よりもおうし座のアルデバランに近づいています。アルデバランの近くには、V字型に並んだ星の集りの「プレアデス星団」が輝いています。どちらも肉眼で5~7個ほどの星々を見ることができ、双眼鏡だと数十個の星々を観察することができます。



★カノープスを探してみよう★

2月の豊川市では、20時から21時にかけて地平線近くの南の低い空にカノープス(りゅうこつ座α星)を見ることができます。カノープスはシリウスに次ぐ全天で2番目に明るい恒星で、-0.7等で白く輝く星ですが、南中高度(南の空で最も高くなる時の高度)が低いため、大気の影響を受けて、実際の明るさよりも暗く赤みがかかった色に見えます。南の地域に行くほど高度が上がり観察しやすく、福島県より北の地域では地平線に隠れて見ることができません。観察する際は、南側が木々や建物で遮られていない場所を選びましょう。



カノープスは中国の伝説で南極老人星と呼ばれ、一見すると長生きできる長寿の星と言われています。ぜひ観察に挑戦してみましよう。

★月と火星の大接近★

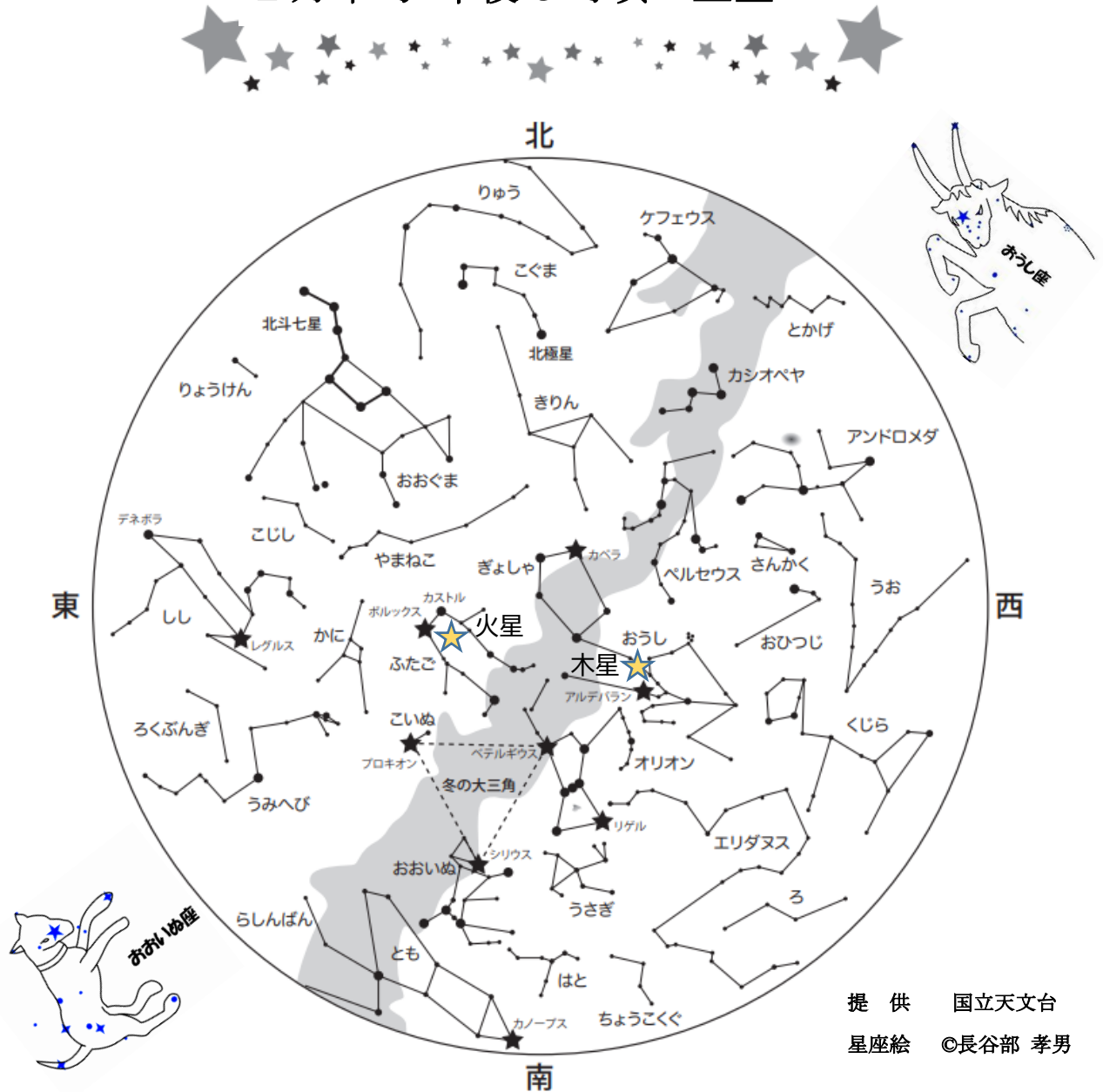
2月9日の夕方から10日の未明にかけて、ふたご座で月と火星が大接近します。夕方、深夜、夜明け前など、時間の間隔をあけて観察すると、火星との位置関係が変わっているのがわかります。9日の21時頃は、月と火星の間隔は約4度(およそ指3本分くらいの幅)ですが、10日の0時頃には約3度、10日5時頃の月が西に沈む直前には約0.5度(指1本の半分の幅)まで接近します。ちなみに、北海道や九州北部では月が火星を隠す火星食が見られますが、豊川では先に月が沈んでしまうため見ることはできません。同じような接近は3月8日から9日にも見られます。これは現在火星が月軌道(白道)に近い位置にあるためです。



☆プラネタリウムの内容については、別刷りの「投影案内」をご覧ください

☆プラネタリウムのお休み 2/3(月)、10(月)、12(水)、17(月)、18(火)、19(水)、25(火)、26(水)

2月中旬 午後8時頃の星空



★ 2月の主な天文現象 ★

- 4日(火) **木星が留**
- 5日(水) **上弦**
月面 X が見える(18時頃)
- 9日(日)~10日(月) **月と火星が接近**
- 12日(水) **満月**
- 15日(土) **金星が最大光度(-4.9等)**
- 21日(金) **下弦**
- 24日(月) **火星が留**
- 28日(金) **新月 金星が留**

最大光度の「金星」に注目

1月10日の東方最大離角(太陽から東側に最も離れて見える時)を過ぎ次第に地球に近づく金星は、2月15日の西の空で最大光度(明るさが最大)を迎えます。天体望遠鏡で拡大すると三日月型に見えるのでぜひ観察してみてください。

